

県政報告会

フェイスブック

Facebook 活動報告

(2018年1月1日～2019年2月16日)



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年1月1日

皆さま、新年明けましておめでとうございます。
今年も元旦は御所野 AEON さん前にてごあいさつからスタートしております！

初めてわが子らにマジマジと見られてしまいましたのですが、
恥ずかしいです（笑）父の謎の行動をどう感じているのか…

少し休憩して午後も頑張りますので、見かけたらご声援よろしく
お願いします！



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年1月17日

湯沢市のシェアリングエコノミーと豪雪対策の視察に同行しました。

小倉総務大臣政務官が来秋し本県の現状を見て帰られたわけ
ですが、この弱冠 36 才で衆議院議員 3 期目の方…

東大～日銀～オックスフォード大学院～衆議院議員。物腰柔らか
かでありながら鋭い洞察力を感じさせる人でした。こういう人
が日本を動かしていくのだろうな、と少し安心してしまいました…





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年1月17日

日本政策投資銀行のスマートベニュー®(2013)
国は2025年までにスポーツ産業を約3倍の規模に拡大しようとしています。
たしかに疲弊する地方にとってスポーツ施設整備は大きな賭けですが、私は夢を見たい。
バスケの社長もサッカーの社長も、10年前はみんなが無理だと言っていたことを成し遂げてきた人。
従来の常識の延長上に秋田の明るい未来はない。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年1月26日

企業訪問活動を本格的に再開しております…
本日はこちら、YEG 仲間でもあるサガンさん。山王で最大80名収容の大ハコは貴重！みなさん新年会・歓送迎会にぜひどうぞ～
ちなみにこのカルタは田崎社長プロデュースの飲食店マニュアル、けっこう面白いです(笑)
業種問わず使えるテーマも多いのでみなさん Amazon へGO！





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年2月5日

最近動きがみえない

とのご指摘をいただきますので活動報告します。

来週議会が始まるまでのこの時期、

最近は

- 各企業の現場回りを再開
- 新しい Report の執筆
- 多くの新年会・行事への出席
- 2月議会への予習（特に財政）
- イージス・アショアの勉強・提言
- 岡田事務所の仕事

などなどを行なっております。

FB 映えするわけではなく…(^^;)



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年2月6日

【高校における ICT 教育現場視察】

本日は同期の佐藤信喜・佐々木雄太の両県議とともに、大曲工業高校で行われている ICT 教育を研修してまいりました。来るべき高度 IT 社会でしっかり生き残っていく人材を育てる地道な努力です。自分も…と思い熱心に聞いてみましたが、予想以上に難しい(*_*)

この高校では就職者の約半数が県外へ行きます。景気が良くなってきて首都圏大手企業からの求人が増えると、それを蹴って『地元就職』を選ぶのはなかなか…

そんな進路指導の現場の苦勞も色々わかりました。選んでもらう企業側の努力は、かなり大きなものが求められそうです。



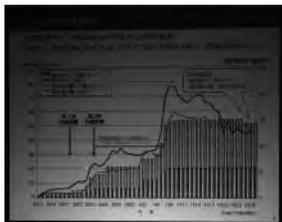


秋田県議会議員 鈴木健太
2018年2月11日

昨日まで、資源エネルギー議員連盟の視察で鹿児島県を訪れておりました。ここ山川地熱発電所(3万kW)は豊富に地熱エネルギーが海岸沿いの平地で利用できるという稀有な立地。当然すぐ近隣の農地では排熱を利用したハウス園芸が行われておりました。佐藤のぶき議員が触れている配管に温水が循環しており、ハウス内が30℃または25℃に保たれております。そもそも外気がこの日15℃もあったので秋田的には十分暖かいのですが…(^.^)

一つ気になったのは、発電量が導入当初より少しずつ減少する理由。やはり徐々に貯留層の熱量が失われていくようで、事前に地下深くの埋蔵量や持続期間が完全に解明できていないということでした。

本県でも湯沢市の上の岱地熱(2.88万kW)などが稼働しておりますが、豊富な埋蔵量のわりに山奥という立地のハンディは否めません。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年2月21日

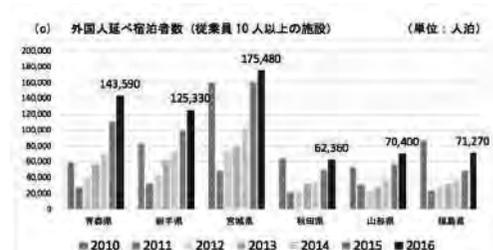
秋田県のH29年外国人宿泊客数が激増しております。11月末の速報値で91,890人泊と、前年同期が66,950人泊なので45%アップ。

国(地域)籍別ランキングは

- ①台湾 37,600(前年比+14,000)
- ②韓国 10,170
- ③中国 7,570
- ④香港 6,230
- ⑤米国 4,420
- ⑥タイ 3,960

あとは1,000台以下 ※従業者数10名以上の施設の統計です。

ということで、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語、英語の4ヶ国語をカバーすればまずインバウンド対応できますね。飲食・宿泊・小売その他サービス業の皆様よろしくお祈いします。便利な翻訳アプリもたくさん出ているのでお金もかかりません。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年3月5日

【県議会でイージス・アショアにつき発言】

本日、総務企画委員会で以下のおりお話ししました。今日までに関係各方面と様々なやり取りをし、何も実現のメドが立っているわけではありませんが、一議員として考えていることをはっきりお伝えしました。

【要旨】

- 現下の情勢において、イージス・アショアの必要性に疑いを持ってはいない。
- しかし、直近に複数の学校や障害者施設、そして13,000人が暮らす町があるような場所への配置はいかがなものかと考える。
- 一方で国にとって、配備までそう悠長に時間をかけるわけにいかない案件であることも理解できる。
- 知事には地方自治体のトップとして、単なる『反対』や『(無作為と沈黙による)賛成』ではなく、県有・国有の遊休地や保安林等の代替地を調査し提案するといった主体的な行動を求める。
- 自衛隊や防衛省は地元の反応を不可変なものとして捉えている(だから戦略的妥当性ではなく権利関係や手続きの容易性で候補地を選んでしまう)と思われるので、県の方から歩み寄ることが大事であり、それが知事のできる唯一の方策である。
- 一旦配備されたら30年はそこにあるわけで、最悪のケースをリアルに想像すればこの場所ではないはず。将来の子供たちのために、ぜひ今行動を取ってほしい。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年3月14日

国政の混乱をよそに…明日の総括審査の準備に追われております。人口の社会減をへらす挑戦に県の本気がやっぱり感じられないので、知事に直接質すことにしました。

写真は KENTA REPORT 2018 春号です。

金曜日あたりに市内の一部地域へ配布させていただきます。広告デザイン屋さんの提案を採用したわけですが…

『何様気取りだ』『誰やねん』

等々のツッコミは慎んでお受けします…

※予算等もろもろの事情で全戸配布できません。ご希望の方はご一報下されば何部でも進呈いたします m(_ _)m





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年3月19日

議会の合間にこっそり民泊の勉強しに来ました…
今年の6月15日から民泊新法が施行されます。
秋田の観光は集客の季節較差や宿泊施設不足が大きな課題なので、上手く機能してほしいです。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年3月22日

本日18時 @ 湯上市役所で開催します！
テーマは『地域社会の維持について』
コミュニティ、交通、医療…
県議団に直接ご意見やご質問していただけますので、皆さまどうぞご参加下さい！！
(私に発言機会があるかはわかりません…)





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年3月31日

県政を担う一員として申し訳ないといしか言いようがありません…
安倍政権や小泉改革のせいだという声も聞こえますが、秋田だけここまで悪い理由にはならない。秋田の行政と民間（一般県民含む）にしかその原因はない。もはや小手先の政策では打開できないのは明白で、強烈なパラダイムシフトが必要だと思えます。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年4月12日

最長5年の技能実習が終わった後、もう5年外国人労働者が働けるような新しい在留資格を作る方向のようです。これはけっこう大ニュース。

秋田県の外国人技能実習生は全国でも最少レベルです。

- 雪国のため通年農業が難しい
- 建設産業の規模が小さいので単一種労働では使いにくい
- 太平洋側のように水産加工業も盛んでない

といった理由で、主に縫製業でのみ技能実習生が活躍しているのが現状です。

しかし人手不足も最も深刻な状況にあるのが秋田県。言語やモラルなどたしかにハードルは低くないのですが、他県ではそれを乗り越えている例も多くあるわけで、県内事業者のみなさんにはこの制度改革を何とか活かして社業発展につなげていただきたいです！！





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年4月17日

【種まき現場実習】

今年度の目標の1つ『秋田県農業への理解を深める』の一環で、昨日はコメ農家の某T商店さんにて現場実習をさせていただきました。

田植えや稲刈りはわかるのですが、実はその他の工程がほとんどイメージできてなかったのが県議としていかなものかと…

実際やってみて、大変勉強になりました。

- ①育苗パレットにうっすら土をまく
- ②種を均等にまく
- ③水を均等にかける
- ④覆土をうっすらかける
- ⑤フォーク用のパレットに並べる

①～④は機械がやりますが、ひたすらこの繰り返し…

帰宅して妻に教えてやったら

『秋田県民ならそんなのみんな知ってるわ』

とのショッキングな反応(°▽°)

秋田は農業県、
とはこういうこと
なのですね…



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年4月24日

人類史上かつてない脅威に対し、世界の最前線で戦っているのが秋田です。地元にとどまって働き、家族を持つ若者が最強の勇者なのではないでしょうか。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年4月24日

本日の県政協議会で、平成30年3月の高卒就職内定者の統計が出ました。

全体で112人減。

県外就職者が90人減。

県内就職者が22人減。

結果、県内内定率が65.8%→68.1%に。

東京が好景気の割にはよくやったのではないかと思います。が、あくまで今年度からの目標は『県内就職者の純増』『社会減の半減』に向けて本格的に動いていきます。

しかし知事が『達成できるかどうかは別として、努力する』と話したのは聞き捨てならず、そこは再度手を挙げ指摘させていただきました(怒)

県内就職希望者数	1,543人	1,556人	▲11.3%
県内就職希望者数	709人	799人	+24%
県外就職希望者数	68.5%	66.1%	▲2.4%
県内就職希望率 ※1	2,217人	2,329人	▲5.2%
就職内定者数	1,510人	1,532人	▲1.5%
県内就職内定者数	707人	797人	▲11.3%
県外就職内定者数	90人	97.9%	98.5%
県内就職内定率	68.1%	65.8%	▲2.3%



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年5月8日

また始まりました…!



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年5月15日

妻の寛容(無関心)を見越して、結婚記念日ですが東京視察を組んでおりました…(^_^;

- ① 渋谷の『変なカフェ』
- ② 伝統工芸『青山スクエア』
- ③ 秋田県東京事務所
- ④ A ターン支援センター
- ⑤ シュタットベルゲの勉強会←これメイン



昼も食べずに歩き続けてヘトヘトです(*_*)

しかし収穫は大きかった。

先日はドイツ森林官の山林調査に同行しましたが、秋田のポテンシャルから言って、サステイナブルなエネルギー県になれない方がおかしいと思います。

明朝は某大手 IT 企業の方とアポ取れたので、秋田の生産性向上について話し合ってきます。

新しい秋田をつくる。(これ私の新スローガン)



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年5月16日

東京2日目

朝のアポがなくなってしまったので(泣)自転車シェアリングの体験を兼ねて靖国神社へ参拝。そして秋田を飛び出し IT スタートアップで頑張っている若者と会ってきました^_^

●自転車シェアリングはさすが docomo、と唸ってしまう登録の面倒くささ。体験も仕事のうちと言いつつ私は粘り強くやり抜きましたが、途中5回は『やっぱ止めよっかな』と思いました。ギチギチに安全担保しないと何もできない日本の大手企業… Expedia やエアビーにお客さん奪われるのも仕方ない。でも登録してしまえば後はカンタン、地下鉄よりもはるかに快適! 電車や地下道では見えなかった東京の日常が見られて、初めて東京での移動を楽しみと感じました。これから使います!

●靖国神社でやけに目立ったのは若い男性ビジネスマン。昔はほとんど見かけなかった。まともな国になってきたなと私は思います。そして日本陸軍の父・大村益次郎の像を前に…国を守ることが『戦争好き』みたいに言われるようになったのはいつの世からだろう、などと嘆息(-_-)

●スタートアップ(世の中変えてやろうとしてるベンチャー企業=私の解釈)の現場もチラ見させてもらいました。東京には一攫千金を狙って日夜戦っている若者が無数にいる(それでもアジアの中では少ない)。県内就職を増やそうとしているものの、やっぱりやる気のある子は1度飛び出してみるべきだよなあ、なんてプレプレの私です(-;-)

結局残りたい人は残って幸せになって、外の世界で逞しくなった秋田人はいつか帰ってきて一発やっつろう! と思えるような秋田にしていくのが王道だなと再認識しました。

私費ですよ(念のため)。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年5月18日

夜の予定を終えて広面の浸水ポイントを見に来たら…
昨夏よりひどいです。

いーぱるに30人は避難してます。川下から改修しないとダメ
なんで…とか何十年も前から言うとするわい！との厳しいご意見も頂きました。

多くの地域に避難勧告も出ています。
まだまだ注意が必要です。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年5月22日

先ほど県政協議会が開かれました。
主な議題は大雨被害の報告とクマ対策。
せっかく知事に直接話せる機会だったので『避難勧告』について質
しました。

今回、避難勧告の対象者は44,000人を超えましたが実際に避難
したのは約500人程度だったそうです。

この『とりあえず出しとく避難勧告』の基準は何なのか？避難勧告
とは何なのか？と問うたのに対し、

『(要約) 避難勧告は地域単位で出すが、その地域の全員に必ずし
も避難が必要というものではないし、実際に全員が避難するよう
な場所もない。避難の必要性は場所ごとに様々なので、そういうつ
もりで出すものである。』

ということでした。

たしかにきめ細かに指示を出すにも限界がありますが、勧告の受
け手である住民にそのニュアンスは伝わっていません。ある人は
実際以上に恐怖するだろうし、ある人は『またか』と慣れてしまっ
て勧告の意味がなくなってしまうので、どういった場合に本当に避
難が必要なのか、どんな行動を取るべきなのかを普段からもっと
周知すべきではないかと提案しました。

平坦な土地でジワジワ水位が
上がるような地域では、家が
流される可能性は低い。二階
建ての家の人は夜間にあえて
避難しない方がずっと安全では
ないか…などと現場をみて
再認識した次第です。



避難所	避難勧告	避難人数	避難人数
避難所1	避難勧告	10	10
避難所2	避難勧告	20	20
避難所3	避難勧告	30	30
避難所4	避難勧告	40	40
避難所5	避難勧告	50	50
避難所6	避難勧告	60	60
避難所7	避難勧告	70	70
避難所8	避難勧告	80	80
避難所9	避難勧告	90	90
避難所10	避難勧告	100	100



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年6月6日

イージス・アショアの配備場所について年末から懸念を伝えてきたつもりでしたが、ついに防衛省側からは何の説明もありませんでした。元仲間としてかなり迷いましたが、ずっと応援しているだけに落胆も大きく。今回の知事への説明などからも、秋田県民を軽視しているようにしか感じられなかったので、意を決して議会ではっきり発言することにしました。この後どこでどなたに怒られるのか正直わかっていません（恐）

要旨は以下のとおりです。

- ①長い海岸線で1番人口密度の高いエリアがなぜ最適地なのか不明（国の示す4つの選定基準に『周辺の状況』は入っていない）
- ②この極めて重要な防衛施設が有事の際に目標とされないわけがない
- ③警備態勢云々の話ではなく、有事を考えると住宅地から離しておくしかない
- ④国有地なので知事や市長に拒否する権限はない。ならば敷地内であるべく住宅地から離すこと、しっかりとした防護措置をとること、避難計画などを万全にすること、県民に納得してもらえるほどの『何か』を求めること、など強硬に主張すべし
- ⑤年末に求めた代替候補地の（内々での）選定はやっていないのか→回答：やっていない

あくまで県や市に拒否する法的権限はありません。だから⑤くらいしか手段がなかったのが求めたのですが…
そしてあくまで一県議の意見なので、結論を変えられるとも思えません。

なんで日本の政治は長期的・大局的視野に立つことができないのだろう？
目の前の手続きが何よりも大事なのです、いつも。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年6月12日

世界の歴史が動くかもしれない今日は、議会の視察で雄勝地域におります。これは羽後町の仙道地区、
・人口は1,000人を切り
・小学校が統廃合され
・JAの出張所が廃止
の状況で、地元のため「お互い様スーパー仙道てんぼ」を運営されているこの気概。最寄りの市街地（西馬音内）まで10km以上・バス路線なしという環境のため存在意義は大きく、年間売上なんと2,000万円。

大小問わず、県政の役割は無限にあります。。。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年6月13日

十文字の農村部に突如現れる、最新鋭のシイタケ栽培プラント。特殊発泡ポリスチレン製のドームハウスはきわめて断熱性に優れ、なんと地下水ヒートポンプのみによる通年温度管理を可能にしています。つまり熱エネルギー的にはほぼオフ・グリッド！エコ＆低コストで単価の高いシイタケ 200t 生産を目指します。

秋田県行政の中でも農政に関しては、なかなかチャレンジングに挑んで結果を出しつつあると私は思っています。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年6月27日

28日(木)13:30より、一般質問をやります！
UPするのを忘れてギリギリの告知になってしまいました(汗)

- ①外国人労働者の活用
- ②災害時の情報共有システム
- ③小規模企業者の生産性革命
- ④電子マネー決済の導入促進
- ⑤離職者職業訓練の最適化
- ⑥県の商標戦略
- ⑦県庁職員の少子化問題
- ⑧データ分析による政策立案
- ⑨県取得不動産の未登記問題

以上9テーマです。
イージスはここでは触れないことにしました。
私は所管委員会で聞けるし、知事のこれまでの姿勢にはだいたい賛成です。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年7月30日

第32回広面の夏祭り、猛暑のなか今年も大盛況でした！
怪しいくらい日焼けしておりますが、遊んで過ごしているわけではありませので…



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年7月30日

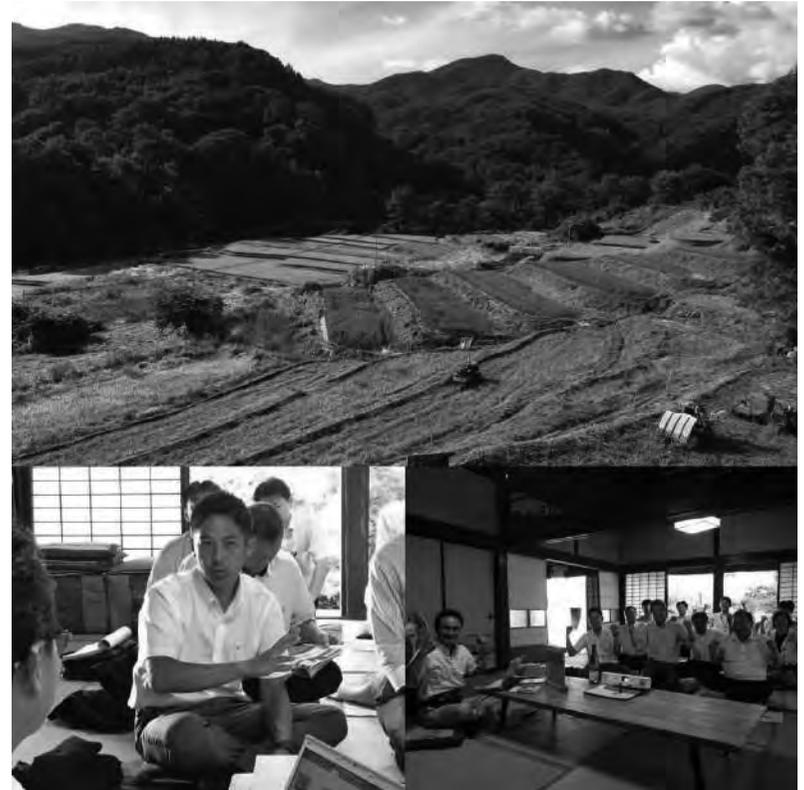
【大企業と限界集落のマッチング】

本日より山梨～長野～群馬と総務企画委員会の視察に出ています。

本日は山梨県北杜市の『NPO 法人えがおつなげて』を訪問。バブル崩壊後に移住した元金融コンサルタントの曾根原代表が、田舎に眠る宝と大企業のニーズとを見事に結びつけました。耕作放棄地を次々に再生して儲かる農業を確立し、消滅寸前だった集落に移住者と子どもが増えています。

山梨は首都圏から近いからな…なんて一瞬思ってしまった私ですが、なんの北海道にも成功事例を作っていました。

できない言い訳は無限に出てきますが、肝心なのはやるかやらないか。食糧危機と担い手激減という（一次産業のための）商環境を考えると今が絶好のチャンスであり、地域に有能な起業家が現れるかどうかがかぎであるとのことでした。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年7月31日

【長野 U スタジアム】

本日はこちら、J3のAC長野パルセイロのホームスタジアム。
H23年当時のJFLで準優勝したにも関わらず、ライセンスがなくてJ2昇格できなかったAC長野パルセイロ…
同じ長野県内のJ2松本山雅に対抗して？長野市が頑張ってH27年整備しました。それほどの大企業スポンサーもなく、気合いですね。
・15,000人収容のJ1規格
・整備主体は長野市（人口38万人）
・総事業費約80億円（国費33,県費5,起債34,寄付金1.7,市の一般財源5.7）
・最寄り駅から徒歩約40分の郊外型
・駐車場1,325台+バス58台

長野オリンピックスタジアム（野球場）も併設されていることもあって、広大な駐車場はすぐにいっぱいになるそうです。現地を見てみると、果たして市街地立地でよいのかどうか少しプレました…

ちなみにスタジアム整備中に優勝、準優勝していますが、ギリギリ間に合わず今も長野はJ3です（当時は既存施設の改修による暫定的な対応はなかったらしい）。それでも女子サッカーの盛り上がりやラグビー国際試合などでよく利用され、それほど大きな批判を受けていないようでした。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年8月1日

【犬でクマを追い払う】

かつてクマによるゴミ荒らしや人家侵入などに悩まされていた軽井沢町ですが、ヘアドッグなどを利用したクマ対策で被害が激減しました。

しかしよく聞くと「犬を使う」という単純な方法論ではなく、

- ①誘引物管理（ゴミ集積所の改良や畑の電気柵など）
- ②個体管理（発信機を取り付けた個体の生態を調べ、個性に応じて対処する）
- ③住民への普及啓発や情報提供

といった総合的な戦略の勝利だということがわかりました。

なかでも驚きだったのが②の個体管理。クマは個体によって行動パターンがまるで異なり、過去の行動履歴によってヒトとの『軋轢レベル』の格付けが可能です。レベルAのヤバいクマはやむなく駆除するけど、たまたま目撃されたものの軋轢レベルの低いクマは犬で追い払って学習させる、といったきめの細かい対応を取っています。その結果、駆除数は少ないのに被害は激減させることができました。

目撃され次第にひたすら駆除して絶対数を減らす、という本県の方針とは哲学が異なります。手間はかかりますが持続可能で効果的な軽井沢方式、クマ好きとしては採用を目指したいものです。



レベル	特徴	対応策
A	ヒトに近づきやすい。警戒心が低い。ヒトを襲う可能性がある。	駆除対象とする。
B	ヒトに近づきやすいが、警戒心がやや高い。ヒトを襲う可能性がある。	駆除対象とする。
C	ヒトに近づきにくい。警戒心がやや高い。ヒトを襲う可能性がある。	駆除対象とする。
D	ヒトに近づきにくい。警戒心がやや高い。ヒトを襲う可能性がある。	駆除対象とする。
E	ヒトに近づきにくい。警戒心がやや高い。ヒトを襲う可能性がある。	駆除対象とする。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年8月12日

お盆の帰省時期を狙ってのAターンフェア。
過去最高?の200人を超える来場者があったようです! 15時の終了時間が近づいてもまだ多くの人が…
人口減対策で私が特に期待しているのが、このAターンと高卒県内就職の増加です。
県の3期プラン初年度、少しでもよい結果を出せるよう建設的に発言していきます!

ご参加の方で、こうすればもっと良い、これはダメだった、などご意見あれば是非お知らせ下さい。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年8月22日

快挙から2日目。
秋田のビジネスマンはいま、
この突如もたらされた【金足】という
全国ブランドをいかに活かすのか、
という超重要課題に直面していることを認識する必要があります。
ジャストミートすれば将来何十億にもなるかもしれないし、感動的な思い出として経済とは無関係に記憶されるのみかもしれません。

感動冷めやらぬうちに無料だとは思いますが、ここから先は大人の番です。私も頑張りますので、どんどん稼いで秋田の経済を回しましょう!



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年9月1日

豪雨の山形県にて、北海道・東北6県議会議員交流会へ参加してまいりました。
今年も分科会で秋田県の発表者を務めました。やっぱり話題は金農の快進撃! 冒頭に応援のお礼を申し上げるとみなさん大きな拍手を下さいました(//∇//)





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年9月2日

【秋田県総合防災訓練】

昨日は消防操法県大会、本日は総合防災訓練と、防災な週末を送っております。
今年の県総合防災訓練は北秋田市。

- ・対策本部の設置
- ・避難所の開設、運営
- ・各自主防災組織の活動
- ・高速道路での事故対応
- ・空港を利用した広域輸送訓練

と本当に総合的、本格的な訓練でした。

被害が大きく地域の医療キャバを超えるとき、大館能代空港が近くにある利点はとても大きいと実感しました。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年9月14日

【せいっぱいのPR】

県は、高野連や朝日新聞社と打ち合わせの上「金農の活躍にあやかる PR のギリギリの線」を明らかにしました。

…私の求めているものとだいぶ違う気もしますが(^^;) 自治体がやる以上はきちんとしないとイケないのですね。

あとは民間事業者のみなさんが、自己責任で(する)賢くいろいろなチャレンジをしてください。ちなみに罰則とかそういうものはないとのことですよ。

私だったら「美男子育てる秋田米」とか？(既視感)

県のこの「秋田のおいしさ直球勝負！球児も育てる秋田産」もいいですね(デザインはともかく)。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年9月26日

めったにない秋田県開催です。
観光に関わるみなさんは是非ご参加ください！！
東北各県が団結してインバウンド観光を盛り上げていこうとしているこの団体、元気な若手経営者がにかほ市に集まります。
ここでの出会いがビジネスに必ず結びつくはず！！
詳細はこちら
<http://www.tohoku-iou.or.jp/>



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年10月2日

【県庁の8割マジック？にツッコミ】
本日の総括審査トップバッターとして、県庁の自分に甘すぎる政策評価制度の見直しを訴えました。
(例えば)
現状 5,000→目標 6,000 の施策で
実績 4,800 に終わったのに
『達成率 80% で B 評価!』(4800/6000=80%)
となってしまうウソみたいな評価基準。
A～D の 4 段階ですよ。

ちなみに岩手県ではあくまで増加数に焦点を当て、
(例えば上記の施策で)
増加数の目標が 1,000 なのだから、800 増の 5,800 でやっと達成率 80%。
4,800 だと増加ゼロなので達成率もゼロ。
こっちが当たり前の感覚でしょう。

しかしこのテーマ、県はやはり頑なでした。
『岩手県は岩手県だと』
『B がよいと思っているわけではない』
などの部長答弁には会議室に失笑が聞こえました…
でも絶対おかしいと思うので、しつこく見直しを訴えていきます。

※写真はイメージです。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年10月12日

10月10～12日で大仙市・美郷町・由利本荘市の県内調査に来ております。主なものとして

●ナイスアリーナ（由利本荘市）

合併特別債を活用して市が整備した大規模スポーツ・防災拠点。東北最大級、5,000人収容の大パコです。サブアリーナ、剣道場、柔道場、屋根付き人工芝グラウンドや宿泊機能などかなり充実した施設です。やはり郊外だけに800台の駐車場は安心感ありますね…

●災害復旧現場（大仙市協和下淀川）

豪雨災害の後、国から強力な財政支援を受けて急ピッチで作業が進んでいます。むしろ予算はいっぱいついたけど人手が足りなくてこなし切れない程…しかしi-construction（建設作業のIT化）の試行が行われており、ドローンによる測量～3次元データによる測量設計～ICT建機による施工、と省力化が図られておりました。

●宿泊交流館ワクアス（美郷町）

バドミントンタイ代表チームの五輪前合宿が決まっている施設。平日の利用が伸び悩んでいるようですが、隣接のグラウンドや体育館・ジムなど使い放題で1泊1人2,700～！ということで、スポ少合宿にピッタリです。皆さんどうぞご利用下さい！！

<http://www.misato-onsen.com/wakuasu>

ちなみにアリーナでの軟式野球ボールも使用可と確認済み（笑）



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年10月12日

【鳥海山 木のおもちゃ美術館】

これはすごいです。予想をはるかに上回る規模とクオリティ。県内 No. 1 のキッズレジャースポットと言ってよいです。なるほどこんな金曜日の昼なのに子どもたちや親・祖父母でにぎわい、今年7月のオープン以来すでに3万人が来場とのこと(°_°) お子さま（小学校中学年くらいまでかな？）のいらっしゃる皆様は必ず行って見て下さい！！





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年10月13日

土崎空襲の話を映像でしっかり聞きました。
ちょっと海でも見ながらゆっくりしたくなるほど私にとっては強烈でした。
ただ平和にくらすってことが難しい世の中



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年10月18日

【外国人に占領された町？】
秋田の国際化（労働力も観光も）推進派としては、外国人が増えた後の生活環境がどうなるのかを見ておかねばというわけで…居住者の過半数が中国人になったと言われる、埼玉県蕨（わらび）市の『芝園団地』へ行ってみました。

団地内のミニ商店街にはたしかに中国系のお店が多く、歩いている子連れはほぼ中国語。平日昼間だったためか、とても静かでのどかな団地という印象でした。これなら自分も住んでいいかな、と思うほどです。ただ日中語併記の注意書が貼られるなど、これまでに色々な事があったんだろうなと推察されます。それらを乗り越えて、今は落ち着いて共存しているという印象を受けました。

不安を感じたのは年齢構成。すれ違う日本人らしき人はほぼ高齢者、一方で子連れと若者は中国人。団地内にできた中華風の託児施設は新しく立派で、すぐ近くにある保育所（日本語表記のみ）は古くて活気がありませんでした。今はともかく、10~20年後どうなるのが想像すると、恐ろしい。

ちなみに『蕨スタン』とよく言われるクルド系の方々は、あまり見かけませんでした。





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年10月30日

【秋田県種苗交換会・新穀感謝農民祭】
県を挙げてこのような神事を行っているのは他にあるのだろうか？
しかも第141回…明治11年から営々と。
秋田県のこういうところがすごい。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年11月9日

【おでかけ交通博 in 秋田】
『公共交通の復権』は私のライフワークの1つなので、見てまいりました。
私がふだんから訴えている無人バスなどの将来構想の前段階の、いま現実に直面して頑張っているお話が聞けて大変勉強になりました。

今回のパネルディスカッションは、南秋田三町村（五城目、八郎潟、大潟）の公共交通活性化協議会が取り組む民間/行政バス路線の効率化がテーマでした。要するに色々な事業者がそれぞれに運行していて重複している区間があるので、整理しようという話です。それを担当する県・町の担当者に対して『地域公共交通東北仕事人』という専門家集団がけっこう容赦なくツッコミ、提案するというなかなか面白い構成。

仕事人たちの意見は実地に即していてもハイレベル・具体的なものばかりでしたので、秋田の担当者さんたちは是非めげずに取り入れて結果を出してほしいです。

（追記）秋田側の発表では、『協議会を設立できた』ということが何か大きな成果のように話されていましたが…いやいやそれはスタートに過ぎないので！と心の中でツッコんでました



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年11月15日

そう遠くない将来に実現したい秋田を描いてみました。
夢ではありません。
世界の急速な変化は地方に逆転のチャンスをもたらします。ITだけではなく、化石エネルギーの枯渇や人口爆発による食糧危機も、秋田のような地域にとっては好機となります。
まず県庁の考え方を一新し、民間のマインドをさらに前向きに変えていく。国の補助金・交付金に加え、PPP や PFI など民間資金の賢い活用法を駆使する。これらが出来れば、この『新しい秋田』は決して不可能ではありません！





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年11月20日

【地方議会活性化シンポジウム】

初めて全国規模のシンポジウムでパネリストを務めました！

なんで私？と思いましたが…

秋田という場所で他県人として議員をやっていること、地盤も看板も全くないところから選挙に挑んだことなどが『多様な担い手の確保』というテーマに合致したようです。

私の周りにも『こういう人が政治やればいいのに』と思える素晴らしい人が多くいるのに、出ない。その大きな理由は、議員への道が片道切符、つまり一度踏み出したら自営業でない限り元の仕事に戻れないこと、一寸先は闇の世界なので子育てや住宅ローンを抱える世代はとてども挑めるようなものではないこと、などにあるとお話ししました（その意味で、公務員等を辞して政治へ向かった方々には心から敬意を抱きます）。

もう少し議員という仕事特殊すぎない世の中になれば多様になると思うのですが。例えば『2期8年は議員として頑張ってみる！あとは元の仕事に戻ります』みたいなあり方が可能になるとか。

などと言うと、終了後『そんな生半可な覚悟しかない奴が議員になっては困る』との先輩方のご意見をお聞きしました。私は兼業でも専業の議員以上に活動している自信はありますが…覚悟は活動を通じて有権者が判断するものだと思います。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年11月25日

【市内どこでも参ります！県政座談会】

今月より市内各地で県政座談会を開かせていただいております！これまでの3年8ヶ月で何ができたのか、これから何をしたいのか。やはり生の声でお話しして初めて理解してもらえますね。

ごくごく少人数でも大歓迎です。土日もOK、60～90分程度（質疑応答によります）。お話を聞いていただける方は、出張しますのでぜひお声がけください！！





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年11月29日

【AIUでゲスト講師を務めました】
『日本文化』という講義の『政治』の回でゲスト出演させていただきました…
10何年ぶりの英語プレゼンで言葉が本当に出てこない。
しかも留学生たちのド直球な質問連発(汗)
●日本人の若者が秋田に残るため何をしているのか？
●移民についてどう考えているのか？
●集団的自衛権についてどう考えているのか？
●女性議員は何人いるのか？増やすために何をしているのか？
●環境保護のために秋田県は何をしているのか？

…どれも『そうだよな、それ聞くよな』と思うものの、正面から聞かれるとドギマギしてしまうのは英語力だけのせいではない。自分の甘さを痛感するありがたい機会でした。
近年まれなほど気の重いイベントでしたが、やっぱり何事も恐れずにチャレンジすると学びも大きいですね。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年12月4日

本日、自民党の公認証をいただきました。
新しい秋田をつくるためには、この道しかないのです。
私は上下にも左右にもぶれず、落ち着いて真ん中を歩いていきたいと思います。



秋田県議会議員 鈴木健太
2018年12月8日

来週からは地元広面地区で連続開催します！
昨日、今季14ヶ所めの県政報告はAIU。
少子化・人口流出対策にはやっぱり若者の意見が1番勉強になりますね～





秋田県議会議員 鈴木健太
2018年12月14日

(炎上覚悟で書きます)

他国のイージスに比べて新屋演習場は狭く、周辺住民の皆様には不安を与えるのは当然です。

だから『県民の生命や生活を守るために反対』と県民の皆様が主張されるのももっともですし、マスメディアがそれを報道するのも健全なことだと思います(その姿勢に若干の偏りがあったとしても)。

しかし仮にも政治家であるならば、反対した後どうするかまで、ぜひ明らかにしていただきたいと思うのです。

- ①そもそも国として弾道ミサイル防衛システム(BMD)が不要だと考える政治家には『ではどうやって国を防衛する構想なのか』
- ②国としてBMDは必要だが新屋ではダメと主張する政治家には『ではどこに配備すればいいのか』

これらの答えがないままに反対を唱えることは、『声を届けることに意義がある』という1つの政治的スタンスかも知れません。しかしそこに留まっていることこそが、今の野党が国民の大きな支持を得られていない原因なのではないでしょうか。国や県といった大きなものを全体整合的に動かすのは容易なことではありません。私も与党一強体制より、健全で有力な野党との緊張関係の方が望ましいと考えています。そのような政治家がもっと現れてくれることを期待します。



秋田県議会議員 鈴木健太
2019年1月1日

【明けましておめでとうございます】

今年も元旦は御所野イオン様前にて新年のごあいさつでスタートしております!!
今年で5年連続!
もはや常連の通行客も(笑)
元旦のこの場所は渡しません!!



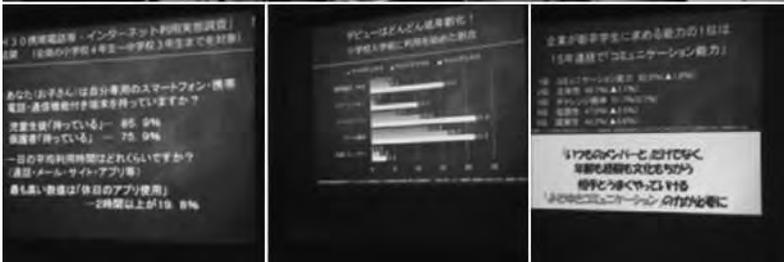


秋田県議会議員 鈴木健太
2019年1月25日

PTAとして小学校の保健委員会に参加したら、なんと内容が県庁出前講座『大人が支える！インターネットセキュリティ』でした(汗)

親のスマホやゲーム機によってネットデビューの低年齢化が著しく、健康への悪影響が心配されています。世界の変化が速すぎるため、今の中1と小1でさえもかなりの違いが…。最近では幼児のうちにネットに触れる子どもが激増中(汗)
結局は親のリテラシーに負うところが大きいのでこうした講座はとても大切です。

県教育庁の講師さん、お疲れさまでした。



秋田県議会議員 鈴木健太
2019年1月31日

【31年度予算案に盛り込まれました!!】

6月一般質問で提案した施策が3点、来年度当初予算案に反映されました。

議会にできるのは監視くらい…ではなく、キチンと勉強して論理的に提案すれば、県を前向きに動かすことができます。

4年目にしてやっと成果を出せ始めましたー!

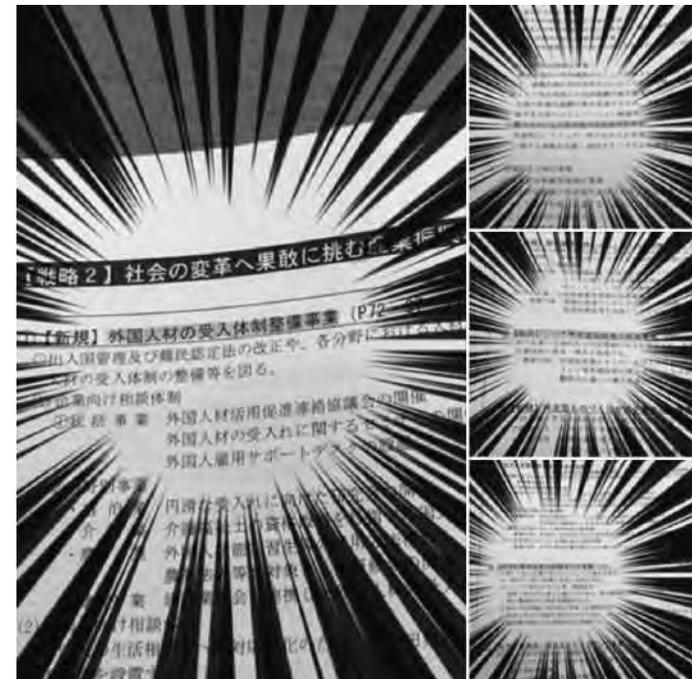
(平成30年6月議会 一般質問)

- ①外国人材の活用 ○
- ②災害時の情報共有システム(ツイッター等)○
- ③小規模事業者の生産性革命 ○
- ④～⑨ 不採用

(平成29年12月議会 総括審査)

- 高卒県内就職の促進 昨年度に引き続き ○

これからもガンガン前向きに提言してまいります!! !!





秋田県議会議員 鈴木健太
2019年2月9日

2月4日、事務所を開きました!!
広面マクドナルド近くの普通の家です。
大通り沿いの店舗物件は賃料が高いため…アットホームな感じの事務所にいたしました。
どうぞよろしくお祈りします!!



秋田県議会議員 鈴木健太
2019年2月12日

選●前でも本来業務を全力でやります(当然ですが…)
2月14日13:30から、任期中6回目の一般質問に立ちますのでぜひ傍聴下さい!

今回の自分的目玉は『4.新しい官民連携のかたち』。
行政が初めにハコを構想してから設計～施工～運営を民間に投げるから『なかいち』のようなことになる。従来のPFIもその域を出す。
そうではなくて、これからは
①理想とする暮らしを描く
②それを実現する持続的ビジネスを計画
③そのために必要十分なハードを考える
という順序で思考し、構想の当初段階から意欲と能力ある民間事業者の力を借りることで、本当に面白い公共施設を整備していきましょう!!
という内容です。
実は国交省ではこの流れを促進しておりまして、H29年から『サウンディング型市場調査』を全国的に行なっているのですが、東北北海道で1件も参加していないのは秋田県のみ…

岩手県紫波町オガールプラザの岡崎正信さんたちの書籍『公民連携の教科書』(日経BP)などがネタ元です。

▶ネット録画はこちらです
<http://smart.discussvision.net/councilorsearchresultlist>1…

鈴木けんた

1期目最後の

一般質問

2月14日(木)13:30～
@秋田県議会 本会議場
13:00 傍聴受付(事前予約は不要)
13:30 一般質問開始(～14:30 終了)

いつもお世話になっている皆様!
今任期中最後、6回目となる一般質問の機会をいただきました!
本日は

- 1 県民に対するリーダーシップ
- 2 県庁に対するリーダーシップ
- 3 税・税制関係
- 4 新しい官民連携のかたち
- 5 外国人労働者に対する競争力強化
- 6 戦略的IT 自身の強化
- 7 エーグル W 杯の経済効果

です。
どうぞお祈りください!

お問い合わせは → 鈴木けんた事務所 018-883-0605 まで



秋田県議会議員 鈴木健太

2019年2月15日

【一般質問全文】 その①

「県民に対するリーダーシップ」

長いので1項目ずつ全文を掲載します。

本日魁新報朝刊に載せていただいた「知事への苦言」はこちらです。終わった後「言い過ぎでは？」と心配の声もいただきましたが、全くそんなことはないと思います。知事はそう小さい人ではありません(^_^)



昨年の夏は、私たち秋田県民にとって生涯忘れられないひと夏となりました。ご存じ金足農業高校野球部の大活躍です。特に劇的な逆転スリーランで横浜高校を破ったあたりから決勝戦に至るまでの時期は、人と会えばその話題でみんな笑顔になり、私はまるで秋田がいつもと違う町になったようにさえ感じました。

そして私はそのとき、人の心とはかくも大きく変わるものなのだというのを、驚きをもって学びました。そしてその頃のような空気、今風にいえば「マインド」というものを仮にずっと維持できるのだとしたら、本県の経済も、そして人口減少問題もめざましく好転することができるであろうと確信しました。

しかし熱狂はいつか冷めるものであり、通常モードに戻ったあと、この県民のマインドをいかに明るく前向きにさせていくかが重要です。これはスポーツや文化などの力だけでなく、様々な要素によって影響されると思いますが、私はその中の極めて重要なプレーヤーが「知事」なのではないかと考えます。知事の行う政策のみならず、その振る舞いや言動は、報道を通じて秋田のイメージや県民のマインドに大きな影響を与えます。ですから知事には、あきらめ、悲観、言い訳といった人口減少マインドではなく、金農野球部が示してくれたような勇気、希望、挑戦といった前向きなマインドを県民が持てるように、力強いメッセージを発し続ける責務があるはずです。

佐竹知事はもともと、テレビCMにも積極的に出演するなど明るいキャラクターで、そうした才能にあふれた方だと私は思っているだけに、近年の自虐的・悲観的な発言は残念に思います。人口減少の原因を多面的に分析することは大事ですが、そこで得た持論をことさら公の場で放言することには何のプラスもありません。知事のおっしゃるとおり、あえて物議をかもしることに関心を高める効果はあるのかも知れませんが、その一方で、その発言により県民の人口減少マインドをますます下へと引っ張っていることにどうかお気づきください。知事には県民のマインドを左右する強い影響力があるということをよくご理解いただき、今後は徹底して明るく前向きな本来の佐竹知事らしいリーダーシップを発揮していただきたいと思います。知事の思いをお聞かせください。

【知事答弁】

ともすれば、人の和を重視するあまり、本音を漏らさず、「まあまあ」という雰囲気になりがちな本県においては、時に直言することが前進につながることもあり、これまで、米依存からの脱却や県庁敷地内全面禁煙などについて、同様のご指摘をいただいたこともありましたが、結果的に望ましい方向に導くことができたと考えております。

また、あくまで自身の感覚ではありますが、県民と直接接する様々な機会において、私自身は気取らず、どちらかと言えば気軽に、かつ楽しく前向きに語り、振る舞うことによって、特に若い層や女性層からは励ましの声をかけられることが多い政治家の部類ではないかと感じております。

いずれにしても、ポピュリズムに陥ることなく、時には現実や実態を厳しく語っても、TPOを踏まえながら、総体的には県民に自信を抱いて頂けるような情報発信を行ってまいります。





秋田県議会議員 鈴木健太

2019年2月15日

【一般質問全文】 その②

「県庁に対するリーダーシップ」

Googleみたいに県庁も"moonshot"を連発するような組織になればなあ！ということでも無理めな要求をしました。今、秋田に必要なのは乱世の奸雄。

▶ 私の前職時代に学んだリーダーシップ論では、「指揮」と「統御」という2つの概念を明確に区別して考えます。「指揮」とは指示や命令を下すこと、つまり正しい情報と決められた思考過程や様式に従って判断し組織を動かすことをいいます。これは教育によって習得できる技術であり、ひとつの科学と言えます。一方の「統御」とはよりソフトな概念で、要するに「この人のために頑張ろう」と部下に思わせる人間性のようなものであり、そのため正解は一つではなく、その人の個性により多種多様な形があります。

知事は県庁在職25年で、行政に関する卓越した識見を持ち、議会答弁でも部課長をしのぐ情報量は圧巻というほかありません。豊富な知識に基づいて、行政上の判断を下し県庁組織を動かす「指揮」は言うことなしでしょう。また「統御」についても、明るく温厚なお人柄で、県職員の苦労をわかってくれる良き理解者として、広く信望を集めているようにお見受けします。

しかし私は、いまや人口減少待たなし、地域間競争によって生き残れるかどうかが決まるこの厳しい時代には、より大胆で強力なリーダーシップ、いわば乱世の奸雄とも言うべきトップの姿を求めたいと思います。

先日、Googleの関連企業の方の講演を聞きました。そのなかで印象に残ったのが、「ムーンショット・シンキング」という言葉です。ムーンショットとは月を撃つということで、要するにクレイジーなほど大胆な思考という意味でしょう。Google社では、10%アップでなく10倍を目指せ、つまりチマチマしたことではなく月までぶっ飛ばすくらいすごいことを狙おうという理念があるそうです。実は世の中には、10%アップを目指すより10倍を目指した方が簡単なことが実際にあると言います。10%アップを目指すとどうしても過去や現在の延長線上でしか発想できませんが、10倍を目指すとなると、もはやゼロベースから全く新しい方法を考えないと絶対に達成できない。むしろそこに活路がある、というのです。

今、手詰まりの状態にある人口減少問題に対しては、まさにこのムーンショットをもって挑むべき時期に来ているのではないのでしょうか。とんでもない目標を本気で掲げると、人間はワクワクし始め、気持ちに火をつけることができます。「よーし面白くなってきた」、「一発やってみよう！」という心持ち。このような状態に、県庁職員の皆さんをさせてほしいのです。

私の見てきた限り、県職員の皆さんは極めて優秀かつ真面目ですが、一見不可能な目標に対して燃え上がるような情熱を持って立ち向かい、クレイジーな発想を次々と出してくる、というような文化はほとんど感じませんでした。もちろん県庁は役所ですので、そうした革新的発想のそぐわない部署も多くあると思います。しかし、少なくとも人口減少や観光、産業振興など攻めていかなければならない分野においては、県庁職員の潜在能力を解き放ち、最大限に発揮させるリーダーシップも、知事の大きな役割ではないでしょうか。乱世にふさわしい、県職員へのこれまでと違ったリーダーシップに挑戦してみたいと思いますが、いかがでしょうか。

それに関連してもう一点伺います。一昨年来私が主張してきた「第4次産業革命への対応」として、知事は今年度デジタルイノベーション戦略室等を設置してくださいました。迅速かつ積極的なご対応に感謝いたします。ところで県庁自体の生産性向上についてはどのような状況でしょうか。県庁の業務は、人工知能やビッグデータの活用により大幅な効率化が期待できる事務仕事が大半のように思えます。県内企業へ本気で普及をしたいのであれば、まず県庁自身がイノベーションを実現すべきではないでしょうか。そして事務作業は思い切ってコンピューターに任せ、人間はより創造的でイノベティブな、付加価値の高い仕事に専念させれば、次々とムーンショットが生まれるような活力ある県庁組織を創り出すことができます。県庁自体のデジタルイノベーションと生産性向上について、知事の構想をお聞かせください。

【知事答弁】

①日々変化する社会情勢において、行政は新たな課題に対し、スピード感のある対応が求められており、私は、常々職員に対し、日頃から広く情報を集め、新しい視点から検証を加え、施策展開を図ることが肝要であると説いてまいりました。

人口減少問題をはじめ、観光や産業振興など県政課題への対応は、継続的で地道な積み重ねが重要である一方、地域間競争に打ち勝ち、県政の更なる活性化を図っていくためには、大胆で斬新なチャレンジが求められております。

今回の当初予算案に新規に計上している「若者チャレンジ応援事業」については、従来の枠にとらわれることなく、若い世代の地域活性化にける情熱を引き出したいという思いを込めたものであり、既存概念を打ち破れという、議員の認識と相通じるものがあると、意を強くしたところであります。

また、議員の思い描くクレイジーなまでの大胆な発想とは次元が異なるジャンルとは思いますが、本県の将来を見据えて取り組む事項として、県勢発展の基盤となる首都圏や他県とのアクセスの抜本的な改善があります。

例えば、他県との間がすべて暫定二車線である高速道の四車線化や、当初予算案において、秋田新幹線トンネル整備構想の実現に向けた調査事業を計上しているところではありますが、将来的には、「秋田・東京間を3時間で結びたい」という大きな夢を抱いており、様々な場で県民にこの構想を示しはじめておりますし、今後、更なる機運の醸成につなげてまいりたいと考えております。

②人口減少の進行に伴い、県税や地方交付税の減少が懸念される中、県においても業務の効率化や事業の重点化等により生産性の向上を図ることは、喫緊の課題となっております。

このため、これまで、県内の共通事務の一元化や業務改善等の取組を進めてきておりますが、特に、ICTの活用は、業務の自動化や省力化につながると期待できることから、第3期新行財政改革大綱においても主要な取組の一つとして位置づけ、人工知能やソフトウェア型ロボットを活用した業務の効率化を進めております。

今年度は、ソフトウェア型ロボットの導入によりパソコン上の入力作業等の定型的業務を自動化する実証実験を行ったところであり、来年度は、その本稼働を目指すとともに、会議や講演等の議事録の作成について、人工知能によって音声から書き起こし、業務を省力化する取組を進めることにしております。

なお、行政事務は、必ずしも定型的業務ばかりではなく、かなり複雑な過程を経て結論を出すものもあり、一概にすべてがICTによる効率化に合致するとは限りません。

また、その他にも、導入費用が多額であるにもかかわらず、そのコストに見合うほど将来継続するか明らかな業務や、法令等の改正に伴いソフトウェアの更新が頻繁に行われ、メンテナンス費用がかさむ業務など、様々なものがあると考えられますが、まずは、取り組みやすく、継続性が見込まれる業務を中心に、ICTの進歩に合わせながら効率的にデジタル化を進め、生産性向上を図ってまいります。

(来年度から議事録作成をAIに任せることが明らかになりました。作業に要していた2,000時間が6割削減！)



秋田県議会議員 鈴木健太

2019年2月16日

【一般質問全文】その③

「脱・殿様商売」

次に、脱・殿様商売と題して、行政サービスのあり方について伺います。

年度ごとに、予算付けした事業に対して多くの不用額が計上されます。その中には景気改善により制度融資があまり使われなかったというケースのように、ある意味好ましいものもある一方で、当初の狙いほどには利用されなかった、いわば不人気事業も少なくありません。そのようなとき、県側からはよく「民間事業者の意欲が弱い」というボヤキが聞こえてきます。

一方で、私は民間事業者や一般県民と接することも多いのですが、そちら側からは決まって「県の制度などは面倒すぎて使う気にもなれない」、「全く現場のことをわかっていない」という不満がよく聞かれます。これはどちらに正当性があるのでしょうか。もちろんケースバイケースだと思いますが、間違いないのは、双方が相手のせいばかりしていたのでは何の成長も発展もなく、結果として経済低迷と人口減少が進むばかりだということです。私はこうしたなすり合いを続けてきた結果が、本県の現状なのではないかと感じています。

となれば、私たち政治や行政ができることは、まずは自分の側を改めてみることでしょう。思惑通りに使われなかった補助制度なら、どういう部分が使いがなかったのか。就活イベントに学生や企業が集まらなかったのなら、時期や場所、周知の方法は十分だったのか。まずは各事業のお客様にあたる方々、つまり企業や参加者などからしっかりと本音を聞き出して、素直にそれを受け入れて改善を重ねていくのが当然だと思います。してやっているのに民間はやる気がない、というような考え方は、流行らない店の店主が客の悪口を言っているのと同じです。

とはいえ、目一杯工夫しているのに結果が出ない、もはや手段は尽きたのではないかと、思える場合があります。そのようなとき民間事業者ならどうするでしょうか。答えは単純で、会社が潰れるだけです。どんなに知恵を絞ってもお客さんが振り向いてくれないということは、提供する商品やサービスがもはや必要とされていないことを意味し、市場からの退場を命じられるということになります。

しかしながら自治体にはそのようなことはありません。どれだけ事業の成果が思わしくなくても、県庁がつぶれるどころか給与や賞与にすら直接影響を受けることはありません。私はそうした制度自体に文句をつけるつもりではなく、そのせつかく恵まれている身分を、もっと県のために生かしてほしいと思うのです。皆さんは、どれだけチャレンジングなことをしても職を失うことはなく、何度でも再挑戦が

できます。だからそれに甘えて変化や挑戦を放棄するのではなく、その失敗を深く分析して、次は違う角度から全く新しいチャレンジをしてみたいのです。しかし私の目には、「行政と民間は違う」という固定観念が非常に強く、先輩たちが形成してきた県庁としての常識や前例を外れることに臆病になっているように見えます。本当に大切なのは、いかに県民の満足度を上げていくか、その結果として本県の発展にいかにか寄与できるのかです。今一度、県庁の常識を一から見直し、殿様商売はやめて顧客ファースト、県民第一で結果にコミットする行政サービスに徹していただきたいと考えますが、知事のお考えをお聞かせください。

【知事答弁】

県の施策・事業については、県民に思いを寄せその満足度を最大にすべく、県民や事業者等との日常的なコミュニケーション、各種会議での議論、議会の提言等を踏まえ、様々な観点から検討した上で企画・立案しております。

しかしながら、中には、事業・制度について十分な理解や協力が得られないなど様々な要因により、当初の狙いどおりの成果が現れない事例があることも事実であります。

人口減少をはじめとする県政の課題は、これまでになく多種多様で困難なものになっており、その解決のためには、大胆な発想による挑戦的な取組が必要であります。まずは県民との間に意識や理解のギャップが生じないように、十分な制度設計と丁寧な説明が基本となるものと考えます。

これからの県職員は新たな課題に挑戦しつつ、同時に県民の理解と協力を得るといふ難しい役割を担っていかねばならないことから、コミュニケーションをはじめとする職員の能力や意識を一層高めていくため、様々な機会を通じて職員の育成に取り組む、県民のニーズを踏まえた効率的で効果的な事業の推進に努めてまいります。

いずれにしましても、私は常々、職員に対し、県民と密接に関連する事業については、県民がどのように受け止めるかなど、相手の立場に立って考えた上で取り組むよう指示しているところであり、今後とも、議員ご指摘のとおり、県民ファーストという視点での行政サービスに意を用いてまいります。

なお、私のトップセールスにおいては、知事という立場にはありますが、一セールスマンという意識で、相手には誠心誠意、説明を尽くし、理解を得られるよう努めており、決して殿様商売ではないことをご理解願いたいと存じます。



秋田県議会議員 鈴木健太

2019年2月16日

これはちょっと説明的記述が多くてクドク長くなってしまいました…でも秋田のハコモノ行政を面白くしていく第一歩にしたいと思っています。

【一般質問全文】その④

「新しい官民連携のかたち」

次に、新しい官民連携のかたちについてお聞きします。

今定例会に提案されました新年度当初予算案は、人口減少等に伴い実質的な地方交付税が約56億円減少する厳しいものであります。その中で、様々な財政努力によって投資的経費を1160億円確保したことは高く評価したいと思います。今後の人口予想を考えると、そうした努力にも早晚限界がやってきます。もはや必要な行政サービスを自治体そのものが自ら負担するという従来のモデルでは、これまで通りのサービス水準を維持することが近々不可能になるのは間違いありません。

そこで近年、全国的に成功例が出始めている官民連携の新しいスキームを積極的に導入することを提案いたします。官民連携は英語で言うとパブリック・プライベート・パートナーシップで、PPPと略称されますが、一口にPPPといっても様々な類型があります。既におなじみの指定管理者制度や外部への業務委託などもPPPの概念に含まれ、なかでもPFI、プライベート・ファイナンス・イニシアティブはよく話題になります。

これは公共施設等の設計や建設、維持管理などに、民間の資金とノウハウを活用し、民間主導で効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方です。例えば、図書館を自治体の予算で建設するのではなく、民間事業者が金融機関からの融資等によって建設し、その後自治体に売却するというのが一つの典型的なスキームです。わが国では1999年にPFI法が制定され、効率的かつ効果的な社会資本を整備し、低廉で良質なサービスを国民に提供することを目的とすると定められました。

それは本来、民間による整備でコストを削減できるということと、民間の創意工夫によりサービスの質の向上が図られるという2つの重要な効果を狙ったものでした。しかし、これまでの国内のPFI案件では、公共サービスの対価に関する国民の意識の低さなどもあり、結局は行政側の指示通りのサービスを、非正規雇用によって低コストで提供するだけに留まっている事例が多く、民間の斬新なアイデアを生かして質の高いサービスを実現する仕組みはなかなか確立しませんでした。

本来のPFIの目的であるサービスの質的向上を実現するためには、行政が先にどのような施設を作るのか決めてから民間事業者の参画を募る従来型の方式では限界があ

ります。「なかいち」の商業施設が典型例です。そうではなくて、これからはハコから発想を始めることをやめ、まずどのような暮らしを実現したいのかを描き、それを支えるための持続性あるビジネスを計画し、それに必要なハードを整備する、という順序の思考過程がトレンドとなりつつあります。事業発案の当初段階から民間事業者の関与を認め、市場調査やテナント誘致の後に必要床面積を算出し、設計施工へ至るという手順を採る。そのようにしてテナント満室で開業し、賃料収入を柱に現在黒字営業を続けているのが、岩手県紫波町の複合施設オガールプラザです。

オガールプラザでは、テナント先付けの手堅さと徹底した低コスト建築が金融機関に高く評価され、銀行から1億3000万円余りの融資を受けています。そうして整備された複合施設は、図書館を集客機能の核として集まった地元業者の商業テナントや、国際基準のバレーボールコート、宿泊施設などが統一感あるデザイン監修によりお洒落な空間を創出し、人口3万人台の町で年間80万人を超える人が訪れるようになってきました。「なかいち」と同じく、官民連携で駅前の遊休地を活用する事業でしたが、構想段階から能力ある民間事業者に大きな裁量を与えたところに最大の違いがあるように思えます。

このような成功例を増やそうと、国交省は近年「サウンディング型市場調査」という手法を推進しています。これは事業発案段階で民間事業者に意見や提案を求め、民間事業者との対話を通じ、市場性の有無や実現可能性の把握、民間事業者が有するアイデアの収集等を行うもので、平成29年から、全国で8つのブロックごとに多くの自治体と民間事業者によるサウンディングが開催されています。例えば、仙台市青葉山公園の整備事業に関するサウンディングに、首都圏の有名遊園地や動物園の運営会社が参加して斬新な利活用案を提案するなど、聞くからに面白いものが生まれそうな事業です。なお、昨年のサウンディングには北海道・東北ブロックで17の自治体が参加しましたが、市町村を含め1件の参加もなかったのは本県だけでした。

本県でも昨年、運転免許センターをPFI手法で整備するか否かが検討されましたが、最終的には施設の性質上裁量の幅が小さいこと、そして建設工事の県内経済への波及効果が小さくなることなどの観点で見送られました。しかし、今考えてみれば、年間約12万人もの人が必ず集まるこの施設を、例えばどのように面白く、儲かる複合商業施設にできるか、初めから民間事業者にサウンディングしていれば、その結論をひっくり返すような斬新なアイデアが出てきたかもしれません。また建設工事についても、民間企業の知見によって、県内事業者だけでしっかりと整備できる新たな手法が発案されたかもしれません。

済んだことは仕方ありませんが、私が是非お願いしたいのは、「PFIはだめだ」、「あれは県内にお金が落ちないのだ」という安易な思い込みで新たな可能性をつぶしてほしくないということです。これから整備が予定されている公共施設に関しては、是非積極的にサウンディングを行い、地元の民間事業者の手によって効率的かつ魅力

的な、県民が本当にいいものを作ってくれたなと思えるような施設の整備を目指していただきたいと思います。知事のご所見をお聞かせください。

【知事答弁】

運転免許センターの改築については、様々な議論があったところですが、実地試験コースや駐車場の確保等の事情を勘案し、現地改築となったものであります。

仮に商業施設を併設するとした場合、人口減少下における周辺地域の商業化を抑制するという秋田市のまちづくり方針と整合性がとれないほか、免許センターへの来訪者数が限定され、またアクセス面等で無理があるのではないかと考えます。

PFIの導入可能性調査においても、運転免許センターについては、一定の検討・研究のうえ、従来型手法による整備が適当とされたところですが、PFIそのものについては、県でも導入を進めていくことにしております。

議員ご提案のサウンディング型市場調査は、事業の発案や検討段階から民間事業者の提案・意見を求め、アイデアや市場性の有無を把握し、事業者が参加しやすい応募条件を設定できる手法であり、国も自治体の取組を支援しております。

県としても、財政状況が厳しい中、効果的な公共施設等の整備を推進していくためには、民間のアイデアを活用し、県民のより高い満足度につながると期待されるサウンディングの実施は有効と考えており、今後は、他県の事例を参考にしながら、調査・研究を進めてまいります。





秋田県議会議員 鈴木健太

2019年2月16日

4ヶ所への現地ヒアリングによって、外国人材にとって秋田の魅力は何なのかということがわかりました。

【一般質問全文】その⑤

「外国人材に対する競争力の強化」

次に、外国人労働者に対する本県の競争力強化について伺います。

昨年6月の一般質問で求めた外国人材の活用について、県は10月に外国人材活用促進連絡協議会を設置しました。また来年度当初予算案においても、外国人材の受け入れ・共生に向けた環境づくり事業に240万円余りが計上されています。この問題に本腰を入れて乗り出してくださったことは高く評価し、感謝いたします。

現在の県の動きは、まずは協議会という場を立ち上げ、県内事業者への外国人技能実習制度の周知と情報共有を図っている段階です。しかしながら、このたび出入国管理法が改正され、本年4月より特定技能という新しい在留資格がスタートする見込みであるなど、想定以上のスピードで状況は変化しております。私は、本県のこのペースでは、また他県との人材獲得競争に敗れてしまうのではないかと、という強い懸念を抱いています。

昨年来、私は、外国人を受け入れている業界や企業の現場でヒアリングを行いました。そこで痛感したのは、こちらが体制を整備さえすれば外国人は来てくれる、というような簡単なものではないということです。日本にやってくる外国人労働者の使命は、短期間にできるだけお金を貯めて本国に持って帰るということであり、賃金水準に劣る県内事業者の競争力は低いと言わざるをえません。寒冷な気候なども不利に働くでしょう。

しかし、20年以上受け入れに成功しているある県内事業者の話聞いて、私は本県の強みを見出すことができました。それは「娯楽の少なさ」と「人の温かさ」です。その会社に来ている中国人実習生によると、東京は賃金は高いけど生活費も高くお金を使ってしまう、だからお金のかからない秋田の方が意外と貯金できる、ということです。そして社長や日本人社員との温かい人間関係があり、米や野菜を分けてもらったり、温泉に連れて行ってもらったりと、本当に幸せに働いているとのこと。これは東京の大きな会社ではなかなか出来ないことでしょう。異国の地で勤める不安な実習生たちにとって、これらは表面的な賃金格差を補って余りある魅力となっているようです。

つまり、これから県で取り組むべきは、まず県内の成功事例から外国人労働者との人間関係構築などのスキルを学び普及させること、そして外国の送り出し機関などに対しては「安心して働ける人のやさしい秋田」、そして遊ぶ場所も少ないので「スト

イックにお金を貯められる秋田」、という彼ら目線にとって魅力的なイメージを地域ぐるみで発信し植え付けることだと考えます。今はSNSですぐに情報が共有される時代であり、評判の良い会社には紹介による実習希望者が頻りに訪れるそうです。そのような事業者を県内に増やしていけば、賃金水準にかかわらず多くの外国人労働者が秋田で幸せに働いてくれるようになり、また、そうした人間関係を築けた外国人の場合は、文化や慣習の違いによるトラブルも発生しにくいのではないのでしょうか。

実習先を選ぶのは外国人の側です。お客様目線での本県の魅力をしっかりと理解し、戦略的に発信していくという方針で今後の対策を行っていただきたいと思いますが、知事のお考えを伺います。

【知事答弁】

新たな在留資格制度の運用に係る国の基本方針では、特定技能外国人が大都市圏等の特定地域に過度に集中することを防止するため、必要な措置を講ずるとされておりますが、いずれ地域間の競争になることは避けられないものと考えております。

本県が外国人労働者の就労先として、賃金水準などの不利な面があることはご指摘のとおりであります。県内企業の中には、私も経営者とお付き合いがありますが、様々な工夫により、長年にわたり技能実習生から選ばれてきたところがあります。

こうした企業は、母国の文化や習慣を尊重しながら相互理解を図るとともに、住居や買い物等、生活面での支援を充実させることで技能実習生から評価されており、これらの実習生がSNS等によって情報を発信することにより、さらに新たな実習生の確保につながるなど好事例も見られることから、今後、外国人雇用サポートデスクやセミナー等を通じ、こうしたノウハウの県内企業への周知を図ってまいります。

また、このような企業の取組に加え、県としても、秋田県外国人相談センターに専門相談員を配置し、外国人労働者等の生活に関わる相談機能の充実を図るとともに、市町村との協働会議において、地域での受入環境の整備や生活面でのサポート体制の強化について協議し、共生社会の実現を目指してまいります。

今後、こうした取組を着実に進めながら、温かい人間関係の中で安心して働き、暮らせる環境など、本県の強みを監視団体や海外の送出機関に積極的に情報提供するとともに、外国人のネットワークにも情報発信し、外国人労働者から選ばれる地域となるよう取り組んでまいります。





秋田県議会議員 鈴木健太

2019年2月16日

県が色々頑張っても、県民のみなさんが世界の変化に気づかなければまた画餅となります。並行して子どもたちや親世代へのIT啓発を強化してください、という内容です。

【一般質問全文】その⑥

「戦略的IT啓発」

次に、戦略的IT啓発について伺います。

世界は第4次産業革命の時代に突入し、これから人間の仕事の多くが人工知能に奪われると言われております。一方でそれらを操る側のITエンジニアはますます人手不足となり、近い将来、産業構造や労働市場の様相が一変していくことは確実な状況です。またIT人材の労働力不足が深刻な首都圏では、大手IT企業が地方の人材を獲得する動きを活発化させており、本県にも相次いで事業所を開設しています。立地を問わないIT産業は本県に良質の雇用を創出できる有力な手段であり、この流れは社会減半減を達成するための大きなチャンスと言えます。

県はデジタルイノベーション戦略室の設置や県立大学の学科再編などにより、県内企業のイノベーション促進とそれを支えるIT人材の育成に力を入れておりますが、私が危惧しているのは、県民、特に今の子どもとその親世代に、この世界の急速な変化が十分理解されていないのではないかとことです。肝心の県民側の意識が変わらない限り、たとえ小学校のプログラミング教育を必修化しようと、また県内IT産業の雇用増大を図ろうと、そもそもこの産業を志向する若者は増えず、結局は成果が上がらないという結果になるのではないのでしょうか。

本県に進出した大手自動車メーカーのIT開発部門は、首都圏での激しい人材獲得競争に限界を感じ、優秀な秋田の人材を地元で採用するために進出を決めたとのこと。少子化の進む本県でも、基礎学力のみならず、IT人材の育成に力を入れている県だとの強いイメージを発信することができれば、今のIT企業誘致の流れも本格化できると考えます。秋田の子ども達を新しい時代でもしっかり稼げる人材に育てるために、また、県外国外に向けては秋田がIT人材の宝庫であると印象付けるために、裾野からの戦略的なIT啓発活動を行う必要があると思いますが、知事のお考えをお聞かせください。

【知事答弁】

県では、これまで、県立大学の学科再編のほか、高校でのICT企業による授業、高校生等を対象としたセミナーやプログラミング実習等により、次世代のICT人材の育成に取り組んできたところであります。

これからの大変革の時代にあっては、経済活動の活性化や様々な地域課題の解決を支えるICTへの理解と、ICT人材の確保・育成は、本県にとっても必須の課題であると考えております。

このため、来年度はこれまでの取組に加え、国の外郭団体による大規模な小学生向けプログラミング体験イベントの誘致や、「ICTフェア」の開催等により、幅広い年齢層の子どもたちや親のほか、広く県民に向けた啓発を強化してまいります。

2020年4月には、小学校から順次プログラミング教育が必修化されることになっており、子どもたちのいわゆるICTリテラシーの向上や興味喚起とともに、親に対しても、今後の産業や社会の動向を始め、必要性の高まる技術、ICT人材の可能性など、ICTのキャリア形成に向けた理解促進を図ってまいります。

県としましては、今後、あらゆる世代に対するICTの啓発とともに、地域ぐるみでのクラブ活動や民間企業のプログラミング教育事業への支援等を通じて、人材の裾野の拡大と高度化を進め、産業界や大学等とも連携しながら、ICT人材が活躍する秋田を目指してまいります。



秋田県議会議員 鈴木健太

2019年2月16日

5年連続の秋田開催となるモーグルW杯、素晴らしいことですがそろそろちゃんと稼いでますか？スイス・ラウパーホルンのアルペンW杯は経済効果34億との試算もあります。答弁はとても残念なもの（スポーツ振興目的のため経済効果は分析していない！）でしたが、今後大化けできるビジネスチャンスだと思います。

【一般質問全文】その⑦

「モーグルW杯の経済効果」

最後に、モーグルW杯の経済効果について伺います。

今年もまもなく、田沢湖スキー場においてモーグルW杯が開催されます。同スキー場での開催はこれで五年連続となり、誘致活動や事務局としての運営業務における県の努力は高く評価したいと思います。ところで、これまでに3億2300万円余りの予算を投じたこのイベントでは、本県にどのような経済効果があったのか、お知らせください。観光・文化・スポーツを一人の部長が統括する知事肝いりの部の所管です。それはスポーツ振興課の事業だから観光振興課はあまり関係していない、などということはやめたいと思いますので、定量的な形でお示しください。

先月スイスの山村ヴェンゲンで開催された同じくFIS主催のアルペンスキーW杯、ラウパーホルン大会は、世界中でTV放送されるなどその経済効果は34億円余りの試算があります。コンテンツと立地に大きな違いはありません。ドローンによる空撮、高品質な動画作成、SNSによる海外への発信など、インバウンド振興につながる努力は尽くされているのでしょうか。田沢湖大会を生かした今後のプロモーション戦略についても、お知らせください。

これは決して、儲からないイベントなどやめたほうがよいという後ろ向きな話ではなく、せっかく苦労して実現したこの世界的イベントをもっと経済活性化・地方創生に生かすべきだという提案です。あらゆる機会にビジネスチャンスを見出そうとする商人のスピリットが足りないのではないのでしょうか。是非とも前向きなご答弁をお願いします。

【知事答弁】

スキー競技の中で、滑降やスーパー大回転などのアルペン競技では、我が国の選手にとって体格的に不利な面がある一方、モーグル競技については日本の選手も世界的な水準に達していることから、雪国である本県においては、たざわ湖スキー場を「モーグルの聖地」として、ウインタースポーツの振興を主たる目的としながら、併せて地域経済の活性化にも生かそうと考え、本大会の誘致に取り組んできたものであります。

スポーツ振興においては、本大会の開催を契機に、オリンピック選手などが小・中学生を対象にジュニアキャンプを開催しているほか、県の事業により地元企業に雇用

された国内トップレベルの選手が、たざわ湖スキー場を拠点として、自身の競技活動の傍ら地元選手の育成に取り組むなど、徐々に本県のモーグル競技定着の環境が整いつつあります。

一方、観光面の効果については、大会の主目的がスポーツ振興であることから、これまでイベントとしての経済効果に係る定量的な分析は行われておりませんが、大会には国内外から100名を超える選手・関係者が集い、一人5泊程度、現地に滞在するほか、期間中の観客が昨年は初めて1万人を突破するなど、地域経済に与える効果は年々高まっております。

さらに、昨年5月にシドニーで開催された冬季観光の見本市である「スノーエキスポ」において、たざわ湖スキー場の魅力をPRしたところ、ワールドカップ開催会場であることが高く評価されるなど、スキー場のブランド力の向上にもつながっております。

また、大会の映像は、国内はもとより、ユーロ圏や米国、カナダなどへも配信されており、国内への配信分だけでも、年約4億円に相当するPR効果をもたらしております。

こうした効果と相まって、以前はほとんど見かけることのなかった欧米やオーストラリアから訪れるスキーヤーが徐々に増加し、今シーズンは1月末現在で、200人を超えるまでに至っております。

県では、観光の振興を図る上で、気象条件が厳しく入込客の少ない冬期間の誘客が必要との認識から、たざわ湖スキー場を、極上のパウダースノーが堪能できるスノーリゾートの中核施設に据え、地元自治体や民間事業者等と一体になりながら、国内外から誘客を進めることとしております。

このため、大会参加選手による周辺観光地のエクスカージョン・ツアーを実施し、選手自身によるSNSでの情報発信に努めたほか、スノーボーダーの目線で撮影したスキー場の迫力ある動画や、田沢湖まで俯瞰できる周辺の風景をドローンで空撮した動画を作成し、PR等に活用しております。

北京オリンピックを控える中国においては、2022年の開催に向け、スキーヤーを5000万人に拡大することを計画していることから、今後は、これまでの取組に加え、中国への売り込みを強化するなど、大会の開催効果を一層高めつつ、冬季誘客の拡大に努めてまいります。

